



木曽林務課だより

10月

木曽には、木曽青峰高等学校、上松技術専門校とともに、森林・林業の未来の担い手が学ぶ林業大学校（以下、林大）があります。今回は、林大の特徴である林業技術や知識を身につけるための実習の様子を紹介します。

未来の林業の担い手をバックアップ

林業では、間伐等の適切な育林作業や、健全に育った樹木を安全に伐採して収穫するための技術とともに、樹木を伐採した後に優れた苗木を植え、次世代の森林を造ることが大切です。林大の実習では、森林の循環利用のために、山林種苗についてもしっかりと学んでいます。

◎ よい森林は、良い種苗から

県内には、成長、形質ともに優れた苗木を育てるための種子を供給する8つの採種園があり、その一つが、南木曽町にある「大原採種園」です。

この大原採種園で、10月1日に1年生が林業総合センターの研究者から採種園の必要性や管理の講義を受けた後、ヒノキ球果の採取実習を行いました。

丁寧に採取した球果は、林大で乾燥させ、種子を採取する工程まで実習します。

ヒノキ球果



大原採種園での実習状況

◎ 安全で正しく的確な伐倒技術を

林大では、安全が要求される伐倒等の機械作業について、基本的な技術を講義と実習で学んでいます。

その一環として、9月29日、30日に林業技術者の先輩である「林業士」の方等に講師として参加していただき、王滝村有林をお借りして2年生が間伐実習を行いました。

事前に作業の支障になるササを刈払ったカラマツ林で、どの木を伐るかの選木、伐採方向の選定、安全な伐倒作業を学びました。

伐倒作業では、講師の指導をしっかりと聞きながら、1年生から繰り返し練習してきた伐木造材技術を実践していました。

彼ら林大生が多くを学び、技術者として木曽を含む県内の森林で活躍してくれることを期待します。



王滝村有林での間伐実習